

部会長就任のご挨拶

本年4月より、粒子・流体プロセス部会長を仰せつかりました。本部会は、化学工学会の中で最大規模の部会です。同時に歴代部会長および関係者のご努力により、その活動においても中心的部会のひとつであると感じており、部会長の任の重さを考えると身の引き締まる思いです。

さて、本部会は熱物質流体工学、ミキシング技術、気泡・液滴・微粒子分散工学、流動層、粉体プロセスの5つの分科会から構成されています。部会制になる以前も含めて、各分科会はそのそれぞれの学問・技術分野で特徴ある会のコンセプトのもとに活発な活動を展開してきました。部会制に移行した2000年以降は、それぞれの分科会活動のアクティビティを維持・発展させつつ、横断的部会活動を通して、各分科会や個々の部会員の活動にさらなるプラス効果をもたらすと同時に、化学工学へのより大きな貢献を実現することを目指してきたように思います。文章に書けば簡単ですが、享受できるメリットとそれに伴う負担の良好なバランスをとるのは容易ではなく、目標を達成するための方法の模索がなされてきました。

改めて部会憲章を眺めてみると、粒子・流体複雑系全般のフロンティア、持続社会実現のための技術開発の推進、基礎現象理解の増進、広範な関連分野の開拓、アジアのアカデミックセンターが謳われています。最近の部会活動を見ても、東日本大震災後の震災復興に関するセミナーの実施や化学工学会誌特集の企画(進行中)、各種の国際会議等の実施、若手・女性育成プロジェクト、部会賞表彰活動など、部会設立時の目標に向かって確実に進捗していると感じます。

今後、さらなる発展を実現するためには、学会本部や部会執行部から部会員への一方向的なお願いだけではなく、双方向の意見交換・議論が不可欠であるのは言うまでもありません。部会員の皆様から、直接あるいは分科会を通じていろいろなご意見・ご提案をお願い致します。



(部会長・梶原稔尚(九州大学教授))

2013年度 部会幹事会・総会報告

日時:幹事会 2014年3月17日 11:30~13:00
会場:岐阜大学サテライトキャンパス 多目的講義室(大)

出席者:上ノ山、梶原、後藤、本間、吉川、太田、野田、松隈、西岡、島田、福井、鈴木、大川原、岩田、加納、仁志(順不同、敬称略)

- 2013年度部会・分科会活動報告:2013年度の部会および分科会の活動状況が報告された。
- 2013年度決算について:部会および分科会の決算(案)が示され、了承された。
- 2014年度予算、事業計画:2014年度の部会予算、事業計画、活動予定が示され、了解された。IWPI2014について説明があり、参加が呼びかけられた。
- 部会賞規定改定:部会賞に関する規約改定案が提案、説明され承認された。(詳細は部会 Web サイト参照)
- 部会セミナー:次回を化学工学会80年会の前日に開催すること。部会賞の受賞者に講演を依頼することが提案され了承された。
- 化学工学会年鑑執筆、化学工学会誌・小特集企画執筆:「化学工学年鑑2014」については分科会長に執筆候補者の選定が依頼された。「化学工学 学会活動最前線」については上ノ山部会長、梶原副部会長、後藤副部会長がオーガナイザーとなり「震災復興への粒子・流体プロセス工学的アプローチ」のタイトルで寄稿することが提案され了承された。
- 粉体工学会との協賛:「粉体工学会第49回技術討論会」に対し協賛することが了承された。
- 部会事務局業務軽減案:部会事務局業務の一部(名簿管理、請求書等発送業務)をパート事務員に委託することについて提案、説明され、了承された。
- 次期役員・幹事体制:次期部会長として梶原稔尚教授(九州大学、現部会副会長)が候補者であることが報告された。次期部会幹事体制案(副会長、幹事、企画幹事、監事、事務局)が提案され、了解された。なお上記の役員、幹事体制は総会にて承認された。
- その他:幹事会の名称を「〇〇年度年会幹事会」、「〇〇年度秋季大会幹事会」とすることが提案され、了承された。

また、同日同所、14:00~15:00に部会総会が催

され、幹事会での決議内容等が報告された。



写真1 総会風景

(前事務局・仁志和彦)

2014-2015 年度 幹事会役員を紹介します

	氏名	所属	担当	分科会
部会長	梶原 稔尚	九州大学		
副部会長	太田 光浩	徳島大学	部会賞	
	後藤 邦彰	岡山大学	行事	
幹事	山本 一己	綜研化学	若手・女性育成プロジェクト	
	大川原 真一	東京工業大学	ニュースレター(正)	熱物質流体工学 代表
	加藤 禎人	名古屋工業大学	部会セミナー(正)	ミキシング技術 代表
	本間 俊司	埼玉大学	シンポジウム賞	気泡・液滴・微粒子 分散工学 代表
	野田 玲治	群馬大学	技術賞	流動層 代表
	福井 国博	広島大学	フロンティア賞	粉体プロセス 代表
	岩田 修一	名古屋工業大学	国際会議(IWPI)(副)	熱物質流体工学 副代表
	西岡 光利	佐竹化学機械工業	若手・女性育成プロジェクト	ミキシング技術 副代表
	吉本 誠	山口大学	動画賞	気泡・液滴・微粒子 分散工学 副代表
	桑木 賢也	岡山理科大学	会員増強	流動層 副代表
企画幹事	加納 純也	東北大学	ニュースレター(副)	粉体プロセス 副代表
	鈴木 洋	神戸大学	国際会議(IWPI)(正)	
	鷺見 泰弘	カネカ	会員増強	
	亀井 登	ダイセル	若手・女性育成プロジェクト	
監事	所 千晴	早稲田大学	若手・女性育成プロジェクト	
	島田 直樹	住友化学	部会セミナー(副)	
	上ノ山 周	横浜国立大学		
事務局	脇屋 和紀	大川原製作所		
	名嘉山 祥也	九州大学	(HP担当兼務)	

(事務局・名嘉山祥也)

2013 年度粒子・流体プロセス部会賞 フロンティア賞・講評と表彰式

2013 年度フロンティア賞の選考経過および結果については、昨年 11 月発行のニュースレター第 10 号ですすでに報告したので、ここでは受賞論

文および受賞者のみ再掲いたします。

「Generation of microbubbles from hollow cylindrical ultrasonic horn」

(山形大学院理工) 幕田寿典 氏、鈴木亮大氏
(現明光義塾)、中尾孝明 氏(現川崎重工)

さて、その表彰式が本年 3 月 17 日の部会総会でとり行われました(写真2)。また、総会に引き続いて行われた部会セミナーで、受賞講演がなされました。昨年まで、部会セッションの中に一般講演と同じ形で組み込んでいましたが、部会セミナーでの講演とすることで、十分な講演時間をとることができ、じっくり拝聴することができました。

部会憲章(部会HPに掲載)の 1 番目に、「粒子・流体プロセス部会は粒子・流体複雑系全般のフロンティアを目指す」とあります。フロンティア性の高い研究論文が数多く部会員から発信されることを願います。



写真2 フロンティア賞表彰

(フロンティア賞選考委員長・梶原稔尚)

2013 年度粒子・流体プロセス部会 シンポジウム賞 (プレゼンテーション賞、奨励賞)受賞講演

化学工学会第 45 回秋季大会 でのシンポジウム賞・奨励賞の受賞者は、ニュースレター第 10 号ですすでに報告をしましたとおり神戸大学・日出間り氏です。化学工学会第 79 年会(岐阜大学)の前日に開催された粒子・流体プロセス部会総会において表彰式ならびに受賞講演会が執り行われました。表彰式では、日出間氏に、賞状ならびに副賞の額縁が授与されました。受賞講演は、「異なる伸長速度が高分子乱流抑制に与える影響の解明」とのタイトルで行われ、非常に興味深い現象を対象とした研究に参加者は熱心に聞き入っていました。

改めてお祝いを申し上げますとともに、今後ますますのご活躍とご発展をお祈りします。



写真3 奨励賞受賞講演 日出間氏

(シンポジウム賞選考委員長・太田光浩)

2013 年度粒子・流体プロセス部会賞 動画賞講評・表彰式

2013 年度の動画賞は、例年になく創意のある作品を多数ご応募いただきました。部会ホームページに掲載されましたとおり、厳正な審査の結果、以下の3部門で4団体が受賞されました。

【 研究部門 】

「マイクロチャネル内の大きな温度勾配下における懸濁微粒子の熱泳動」谷口一平(東工大院理工・学生)、大川原真一(東工大院理工・准教授)、吉川史郎(東工大院理工・准教授)



写真4 動画賞(研究部門)表彰

「攪拌槽の層流混合場における粒子分散挙動」田中 久登(神戸大院工・学生)、名畑 菜由子(神戸大工)、堀江 孝史(神戸大院工・助教)、大村直人(神戸大院工・教授)



写真4 動画賞(研究部門)表彰

【 技術部門 】

「コーン型ドラフトチューブの混合性能」古川陽輝(名工大・学生)、加藤禎人(名工大・教授)、多田豊(名工大・教授)、佐藤誠(佐竹化学機械工業)



写真5 動画賞(技術部門)表彰

【 教育部門 】

「気液自由界面上に発生するマランゴニ効果によるマイクロ混合流の可視化」山田 崇(芝浦工大大院理工・学生)、小野直樹(芝浦工大工・教授)



写真6 動画賞（教育部門）表彰



写真7 技術賞表彰

化学工学会第79年会(岐阜大学)期間中に授賞式と作品鑑賞会がおこなわれました。お祝いを申し上げますとともに、今後、益々のご活躍をお祈りします。

(動画賞選考委員長・島田直樹)

2013年度粒子・流体プロセス部会賞 技術賞講評・表彰式

2013年度の技術賞には1件の推薦があり、各分科会からの審査員5名で審査を行いました。今年度の候補も、技術的な新規性が高く、また実機として実用化され、製薬、食品、金属、窯業など多岐に渡る業界で評価されていることなどから、高い評価となりました。以上より、下記1件の技術を本年度の技術賞候補として推薦し、部会にて承認され、3月開催の年会の部会総会で表彰されました。

「DEMによる新型粉体混合機の開発とその製品化」

代表者:株式会社 徳寿工作所 吉次 寛 氏

共同研究者:同 吉田 泰三 氏

共同研究者:同 朝日 正三 氏

共同研究者:同 堀合 誠 氏

(技術賞選考委員長 野田玲治)

2013年度粒子・流体プロセス部会賞 受賞者から

この度は、粒子・流体プロセス部会シンポジウム賞（奨励賞）を頂き、誠にありがとうございます。お忙しい中、選考を下さった、部会・分科会関係者、選考委員の皆様には感謝申し上げます。

今回受賞した発表題目は、「異なる伸長速度が高分子乱流抑制に与える影響の解明」です。私たちは、流体に微量の高分子を添加すると、乱流の流体摩擦抵抗が著しく減少する現象である乱流抑制について研究しています。特に、高分子の伸長粘度の増加が乱流抑制に大きな影響を与えていると考え、伸長応力が支配的にかかる系（二次元格子乱流）を用いて、伸長粘度特性の異なる高分子を添加した場合の乱流抑制効果を二次元乱流中の渦の変形から定量化しました。この研究から、二次元乱流中の渦の消失すなわち層流化には、高分子の屈曲性、すなわち伸長粘度の増加しやすさが強く影響することを実験によって初めて明らかにしました。

私自身は、化学工学の分野に入ってからまだ3年目です。まだまだ若輩者で、至らぬ点多々ありますが、今回の賞を励みにして努力を続けて参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。最後に、本研究について様々な助言を頂いている神戸大学の鈴木洋先生、菰田悦之先生に心より感謝いたします。

(日出間り氏)

2014年度粒子・流体プロセス部会シンポジウム賞の募集について

化学工学会第46回秋季大会における粒子・流体プロセス部会企画のシンポジウム(S-21、S-22、S-23、S-24、S-26)では、シンポジウム賞(奨励賞およびプレゼンテーション賞)を設定しています。

奨励賞の対象は、審査を希望する37歳未満の正会員の発表とします。「奨励賞」につきましては、奮ってのエントリーをお願い致します。プレゼンテーション賞の対象は、S-21～S-24で、学生会員(社会人Dr. コース在籍者を除く)の全発表としますが、辞退も受け付けます。また、S-26では、希望する学生会員(社会人Dr. コース在籍者を除く)の発表とします。詳細につきましては下記のアドレスへアクセスの上、案内をご参照下さい。

<http://www2.scej.org/partluid/data/hyosho/Symposium/2014/sympo-boshu46th.pdf>

(シンポジウム賞担当・本間俊司)

2014年度粒子・流体プロセス部会技術賞の募集について

粒子・流体プロセス部会では、毎年粒子・流体プロセスに関連した技術に関して特にすぐれた業績のあった者に技術賞を授与しております。本年度も本部会に関係する技術を対象に、会員の推薦による候補者から、厳正な審査のうえ受賞者を決定する予定です

1. 推薦対象

粒子・流体プロセスに関連した新規性、有用性の高い技術で、実用化あるいは実用化に近い段階まで達しており、その実用化により社会的にインパクトの大きな装置、システム、プラントなどの開発に貢献した者とし、その基本原理の発明者、あるいは開発者の個人または5名以内の共同研究・開発者に授与します。ただし、受賞候補者の中には本部会会員(個人会員・法人会員・特別会員)を含む必要があります。

2. 対象とする期間

主として過去1年間に公表された技術を対象とします。ただし、長期にわたる技術開発や特別の事由がある場合はこの限りではありません。本年度の審査は秋以降を予定しておりますが、募集内容は皆様にwebあるいはメール等でご連絡いたします。我が国の国際競争力の低下等が指摘されておりますが、優れた技術を顕彰し、粒子・流体プロセス分野での我が国の技術のプレゼンスを高めることが重要と考えますので、自薦を含

め注目する技術を是非ご推薦頂きますようお願い致します。

(技術賞担当 野田玲治)

2014年度粒子・流体プロセス部会動画賞の募集について

化学工学会第46回秋季大会における粒子・流体プロセス部会企画のシンポジウム
S-21 先端粉流体プロセス技術の新展開—粒子設計、機能化、計測評価と単位操作—
S-22 高度化するミキシング技術—現象の解明から新たな応用まで—

S-23 気泡・液滴・微粒子分散工学 2014

S-24 熱物質流体工学の最前線 2014

の発表において優秀な動画をご発表いただいた方を対象に、動画賞を設定しています。

動画賞は研究作品、技術作品、教育作品の3部門ございます。受賞者には、翌年の化学工学会第80年会時に「動画賞」授賞式を行い、併せて作品鑑賞会を実施する予定です。

【応募要項】(応募方法等詳細は4/29に会員にメール配信されました案内をご参照下さい。)

対象動画作品:以下①～③の条件を満たす動画
①化学工学会第46回秋季大会における粒子・流体プロセス部会企画の上記シンポジウムで発表した講演著者の発表動画であること

②動画賞規程に従い、以下の条件を満たすものであること。

1. シンポジウムにおける発表作品であること。
2. 作品の長さは5分を標準とし、10分以内であること。

3. 作品には、表題、説明(ナレーションおよびスチル画面等)があり、それだけで完結した内容であること。

4. 粒子・流体プロセスの研究・開発・教育に関するまじめな作品であること。

③YouTubeに投稿された公開動画であること。

ご応募いただいた方のうち、希望者の方には審査終了後に部会ホームページへ動画作品のリンクを行います。情報発信手段として、是非ご活用いただければ幸いです。過去の動画作品は部会HPでご覧頂けます。皆様からの奮ってのご応募をお待ちしております。

(動画賞担当・吉本誠)

2014 年度粒子・流体プロセス部会フロンティア賞の募集について

2006 年度に創設されたフロンティア賞の募集を昨年度までと同様に行います。化学工学論文集、*J. Chem. Eng. Japan* など(化学工学に関連する国内外の学術雑誌や同関連の国際会議等での査読付き Proceedings)に掲載された論文の中で、特にフロンティア性の高い優秀な研究論文で、本部会会員が著者になっている論文を推薦の対象としています。

本賞は、着想のフロンティア性、研究へのアプローチに対するフロンティア性、結果に対するフロンティア性、粒子・流体プロセス分野に対するフロンティア性の 4 項目を評価項目としています。今年度は 2013 年 9 月から 2014 年 8 月までに掲載された論文を審査対象とし、自薦、他薦を問いません。募集開始は 8 月上旬を予定しております。正式に決定次第、ホームページ、メールで会員の皆様に告知致しますので、皆様からの多数の応募をお願い致します。本賞の詳細は以下のアドレスでご覧頂けます。

<http://www2.scej.org/partluid/data/hyosho/Frontier/frontier.php>

なお、次回年会時に開催される部会セミナーで受賞者を表彰し、受賞記念講演を行って頂く予定に致しております。

(フロンティア賞担当・福井国博)

2014 年度粒子・流体プロセス部会セミナーについて

昨年度から部会セミナーは部会表彰者を講演者として年会時に開催されることになりました。本年度は、まだ受賞者および年会の期日や場所が未定のため、改めてご案内申し上げます。

(部会セミナー担当・加藤禎人)

女性・若手育成プロジェクトについて

去年の 12 月 16 日に綜研化学の狭山事業所にて若手・女性研究者の工場見学・交流会が開催されました。今回は、前回より参加者がさらに増加(27 名+綜研化学の若手社員 8 名)し、本会の認知度の高まりが確認できました。

綜研化学は粘着剤を製造・販売しており、原料モノマーの反応工程から熟成、ろ過、充填工程までの一連の設備を見学しました。特に、

反応工程では特殊な大型翼で反応液が攪拌される状態を十分に観察することができました。

見学後の講演会では、早稲田大学の所先生の司会で、初めに慶応大学の藤岡先生からマイクロチャンネルのスラグ流についてのシミュレーションなどの研究成果と海外留学での貴重な経験談のお話を頂きました。綜研化学からの話題提供では、企業で活躍する女性から、企業における自己実現のアドバイス、新規事業の立上げに携わっている女性からは研究開発への思い入れなどが話されました。また、若手男性技術者からは、企業におけるケミカルエンジニアリングの役割などの経験を通じた話を聞くことができました。特に、企業の女性からのアドバイスは、学生の方には大いに参考になったかと思います。

各講師の発表後には、所先生の司会でパネルディスカッションを行い、女性が企業で活躍する上での企業側の期待と働く立場からの議論が活発に行なわれました。懇親会では全員の自己紹介で盛り上がり、時間を忘れて技術者同士の会話がはずみ、終始有意義な交流会が行なわれました。

(担当・山本一己)

分科会からのお知らせ

ミキシング技術分科会

ミキシング技術分科会では例年通り、夏期セミナー、東日本、関西・東海、九州各地区のサロンを開催いたします。日程が決定しているもののみ下記ご案内申し上げます。

(1) 夏期セミナー

期日:平成 26 年 8 月 21 日(木)~22 日(金)

場所:福岡大学中央図書館多目的ホール

講演:

【8 月 21 日(木)】

・「晶析操作による品質設計と攪拌スケールアップでの考察」 大塚化学(株) 百永眞士氏

・「無摺動クリーン攪拌機「スイングスター」の攪拌性能」(株)神鋼環境ソリューション 小川智宏氏

・「種々の空間的カオス混合における混合性能」山形大学 高橋幸司氏

・「住友の攪拌槽ラインナップ」住友重機械プロセス機器(株) 竹中克英氏

・懇親会

【8 月 22 日(金)】

・「流脈観察に基づく種々の攪拌槽の混合機構—攪拌レイノルズ数について—」名古屋工業大

学 加藤禎人氏

・「医薬品製造に特化した攪拌装置開発 ～微生物培養・バイオ医薬・再生医療における攪拌技術～」佐竹化学機械工業㈱ 根本孝宏氏

・「アクリル製機能材の製造と攪拌」綜研テクニクス㈱ 忍足輝男氏

参加費:正会員:¥13,000、学生会員:¥8,000、会員外:¥25,000 + 懇親会参加:¥5,000 別途
申込方法:8/12(月)までにメールで以下項目を明記願います。氏名、所属、E-mailアドレス、電話番号、懇親会出欠、会員の別

申込先:mixing201408@chem-eng.kyushu-u.ac.jp
(2) 関西・東海地区ミキシング技術サロン
(産学官連携センターグローバルテクノロジー委員会共催)

期日:平成26年10月31日(金)15:00～

場所:名古屋工業大学校友会館

講演:

・「攪拌槽の構造設計から運転検査まで」

(有)ケミックス 寺本正充 氏

・「異粘度液体混合装置(仮題)」

日本ソセー工業(株) 森川義博 氏

懇親会:参加費¥4,000(当日払い)

申込先:kato.yoshihito@nitech.ac.jp

東日本地区、九州地区のサロンにつきましては決定次第ご案内申し上げます。

詳細は下記当分科会 HP をご覧下さい。

<http://www.scej.net/mixing/>

(分科会代表・加藤禎人)

気泡・液滴・微粒子分散工学分科会

今年度から分科会代表に就任いたしました埼玉大学の本間俊司です。今年度から2年間、私を含めた4名の幹事(副代表:山口大・吉本誠先生、企画幹事:東京大・酒井幹夫先生、会計幹事:慶應大・藤岡沙都子先生)が中心となって分科会運営を行います。どうかよろしくお願ひ申し上げます。

今年度の活動について、主なものをご紹介します。まず、化学工学会第46回秋季大会において、シンポジウム「(S-23)気泡・液滴・微粒子分散工学2014」を企画しました。シンポジウムでは、静岡大学の齋藤隆之先生から「気泡・液滴分散系における計測技術とその応用」と題する展望講演もいただく予定です。是非ご参加を頂き、活発な討論をして頂ければと存じます。秋季大会の初日には、恒例の気液固分散工学サロンも開催します。詳細が決まりましたらホームページ等でご案内いたします。

本分科会が中心となって開催する国際会議、「第2回マルチスケール多相プロセス工学国際シンポジウム(2nd International Symposium on Multiscale Multiphase Process Engineering、MMPE2)」が2014年9月24日～27日、ドイツ、ハンブルクで開催されます。2011年に金沢で行われた第1回に引き続き、日独を中心に分散工学に関連する研究者が集います。講演申込は終了しましたが、アットホームな雰囲気での会議でネットワーキングに最適です。是非ご参加ください。

(<http://www.applc.keio.ac.jp/~terasaka/MMPE2014/>)

このほか、協賛および共催の講演会を企画しています。2014年11月4日には「第6回ファインバブル技術講習会～ファインバブル技術の最新動向と計測技術～」を慶應義塾大学日吉キャンパス、来往舎シンポジウムスペースにて開催します。日本混相流学会および化学工学会関東支部の共催ですが、関係の深い本分科会が協賛として協力します。

また、東京大学との共催で「第2回混相流に関する最先端科学技術シンポジウム」を2014年11月14日に東京大学武田先端知ビル武田ホールにて開催します。7人の講師から最新の研究成果を報告して頂く予定です。是非ご参加ください。

(<http://dem.t.u-tokyo.ac.jp/yayoi.html>)

他にも色々な行事を開催、共催して参ります。部会会員の皆様にも案内を送付させていただきますので、積極的に本分科会の活動にご参加して頂ければと存じます。情報は、HP上にて随時、更新して参りますので、下記の本分科会HPをご参照ください。

<http://www.applc.keio.ac.jp/~terasaka/BUDROPE/>

(分科会代表・本間俊司)

流動層分科会

第20回流動化・粒子プロセッシングシンポジウム(FB20)が2014年12月11日(木)～12日(金)に加計学園創立50周年記念館(岡山市北区理大町1-1)で行われます。

今年度も6分野に分けて講演募集をいたします。

1. 流動化のサイエンス(流動・伝熱・気泡・CFD)
2. 機能性粒子・コーティング・造粒
3. エネルギー・リサイクル・環境浄化・バイオマス転換・CO₂排出低減
4. 反応操作(触媒反応・気固反応)

5.物理操作(乾燥・分離・熱処理・粒子付着・粒子捕集・磨耗)

6. 医薬品・粉体プロセス

講演申込の締め切りは8月31日(予定)となっています。多くの皆様のご参加をお待ちしております。詳しくはFB20のHP(近日公開予定)をご覧ください。

また、例年実施されている粒子・流体プロセス技術コースは8月28日(木)～29日(金)に中央大学で実施されます。申込期間は6月1日(日)～7月31日(木)です。詳細は技術コースHP(<https://sites.google.com/site/atwfbtc/>)をご参照ください。

この他、分科会に関する情報は、分科会HP(<http://fluidization.ees.st.gunma-u.ac.jp/wp/>)で随時更新してまいります。

(分科会代表:野田玲治)

熱物質流体工学分科会

2014年度より本分科会は、東工大・大川原真一(代表)、名工大・岩田修一先生(副代表、会計幹事)、山形大・木俣光正先生、京都大・谷口貴志先生、山口大・佐伯隆先生、福岡大・鈴木一己先生、千代田化工・前川宗則様を幹事として運営してまいります。皆様からのご協力を宜しくお願い致します。

今後の行事として、以下を予定しております。

(1) 熱物質流体工学セミナー2014

日時:9月16日(火) 15:30 - 19:30

場所:福岡大学文系センター棟2階第1会議室
講演:

・「高分子流体のマルチスケールシミュレーション」
京都大学 谷口 貴志 先生

・「粉体攪拌型反応器の数値解析」
出光興産株式会社 坂倉 圭 氏

参加費:一般5,000円、学生2,500円

申込先: sokawara@chemeng.titech.ac.jp

(2) IWPI 2015 - Towards a sustainable process technologies in 21st Century -

日時:2015年4月27日(月)～30日(木)

場所:Canik Basari University, Samsun, Turkey
詳細については、決定次第ご案内申し上げます。

(分科会代表:大川原真一)

粉体プロセス分科会

2014、15年度の粉体プロセス分科会は、福井国

博(代表、広島大)、加納純也先生(副代表、東北大)、後藤邦彰先生(副代表、岡山大)、押谷潤先生(会計、岡山大)の体制で、2012、13年度体制から引継ぎをさせていただきました。

2013年度は、岡山大学で開催された第45回秋季大会にて「革新的粉体プロセス技術の進展ー生成・機能化・計測・特性評価・ハンドリングー」と題したシンポジウムを開催し、31件の発表が行われました。

また、「6th French Research Organizations -Tohoku University Joint Workshop on Frontier Materials and Processes-」への協賛、「微粒子工学講演会」の共催を行いました。

本年度は、九州大学で開催される第46回秋季大会にて流動層分科会との共催で「先端粉粒体プロセス技術の新展開ー粒子設計、機能化、計測評価と単位操作ー」を開催致しますので、本シンポジウムへの積極的な参加をお待ち致します。また、粉体工学会が主催する「第49回技術討論会「粉砕と分散」」が粒子・流体プロセス部会の協賛行事となっています。

分科会独自行事として2012年度に開催した「粉体プロセス工学セミナー」を本年度は是非とも開催したいと考えております。正式な開催が決定しましたら、部会ホームページなどを通してアナウンスさせていただきます。

今後も引き続き、粉体プロセスに関するシンポジウムや研究会等各種行事を積極的に共催・協賛して参りたいと考えておりますので、共催・協賛のご依頼がございましたら、分科会幹事まで是非ご連絡下さい。分科会会員の皆様のご要望を分科会の運営に取り入れて行きたいと思っておりますので、ご意見等がありましたらお気軽にご連絡下さい。

(分科会代表:福井国博)

部会への入会方法

■化学工学会の個人会員(正会員、学生会員)の方は、化学工学会HP(<http://www.scej.org/>)の「各種申込>部会入会」より、お申し込み下さい。

■化学工学会の法人会員、個人会員でない法人あるいは個人の方で、粒子・流体プロセス部会の賛助会員、特別個人会員入会をご希望の方は、下記の粒子・流体プロセス部会事務局までご連絡下さい。

■分科会に所属されていない部会員で、入会希望分科会がございましたら、部会事務局へご連絡下さい。

■化学工学会会員の方のeメールなどの変更は、化学工学会ホームページで行えます。

■部会賛助会員、特別個人会員の方で、eメールの変更は事務局までお知らせ下さい。

Phone/Fax: (092)802-2756

E-mail: scej.fpp@gmail.com

(事務局・名嘉山祥也)

部会ニュースレター編集後記

皆様のご協力により、七夕の日によろやく部会ニュースレター11号発行の運びとなりました。この場をお借りして御礼申し上げます。お気付きの点、ご意見などございましたら気軽に編集担当までご連絡頂ければ幸甚に存じます。

(ニュースレター担当・大川原真一・加納純也)